

2025年度 こどもエコクラブ

サポーターアンケート 結果報告書



こどもエコクラブ全国事務局



サポーターアンケート調査のあらまし

こどもエコクラブのサポーター及び活動の実態を把握し、こどもエコクラブが持続可能な社会づくりの担い手育成に対してどのように貢献しているか、またどのような課題を抱えているかを明らかにするとともに、調査結果を関係者と共有し、今後の事業展開の参考とさせていただきます。

【実施概要】

1. 対象：2025年度登録クラブのうち

①メールアドレスが登録されている 1,551クラブ

②FAX番号が登録されている 44クラブ

合計1,595クラブ

※3月27日時点

※こどもエコクラブ全国フェスに参加したクラブも含む

2. 実施期間：2026年3月21日～4月27日

3. 実施方法

- ・アンケート回答用ウェブページを作成、メールまたはFAXでURLを案内し回答を依頼
- ・インターネットが使用できないクラブにはFAX・郵送での回答を依頼

4. 有効回答数

①ウェブサイトからの回答：226件

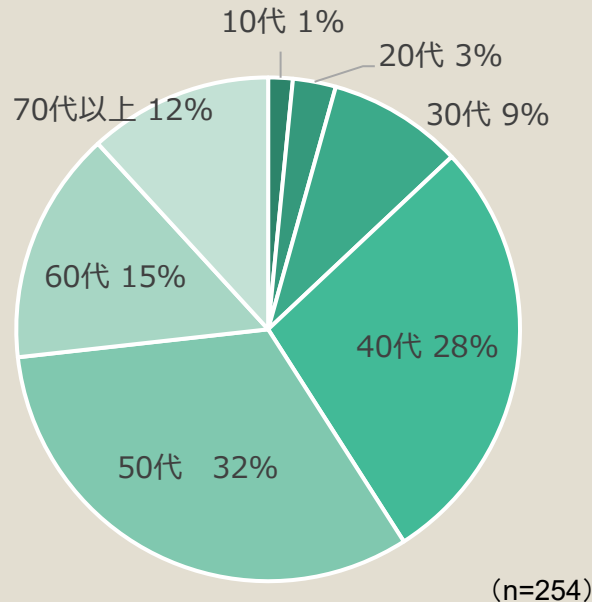
②FAX・郵便等での回答：28件

合計：254件（回答率 15.9%）

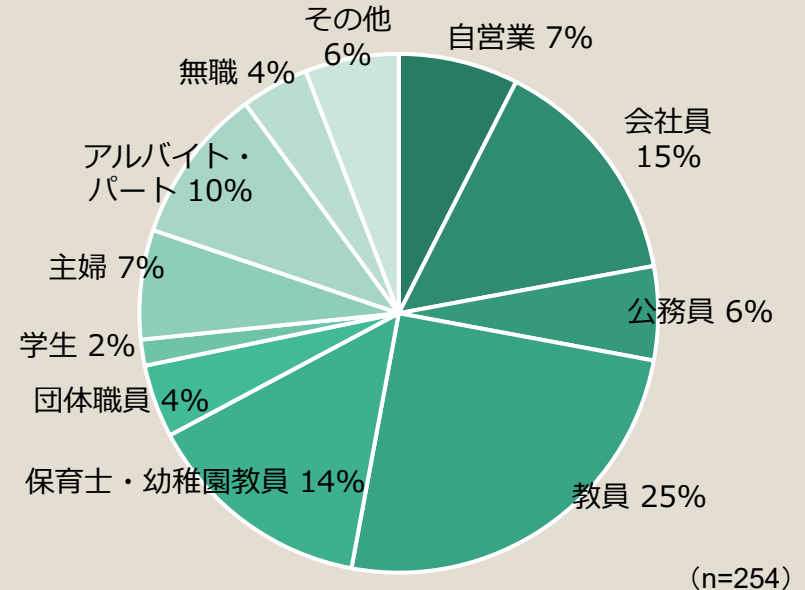
※ウェブサイト回答率 14.2%

多様な年代・職業のサポーターさんからご回答いただきました

◆サポーター年代



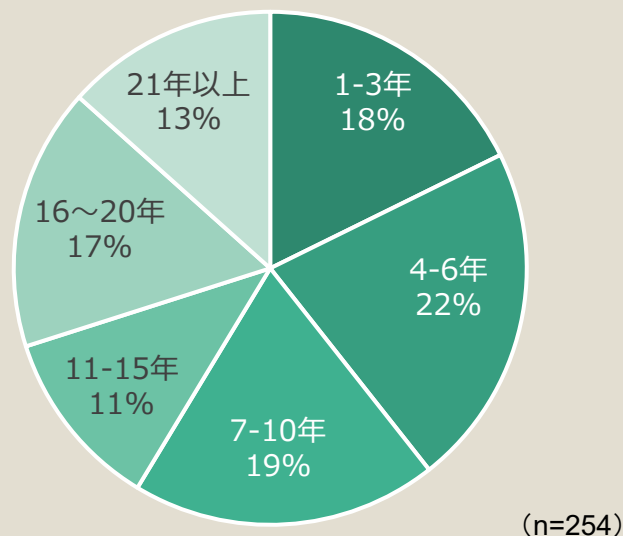
◆サポーター職業



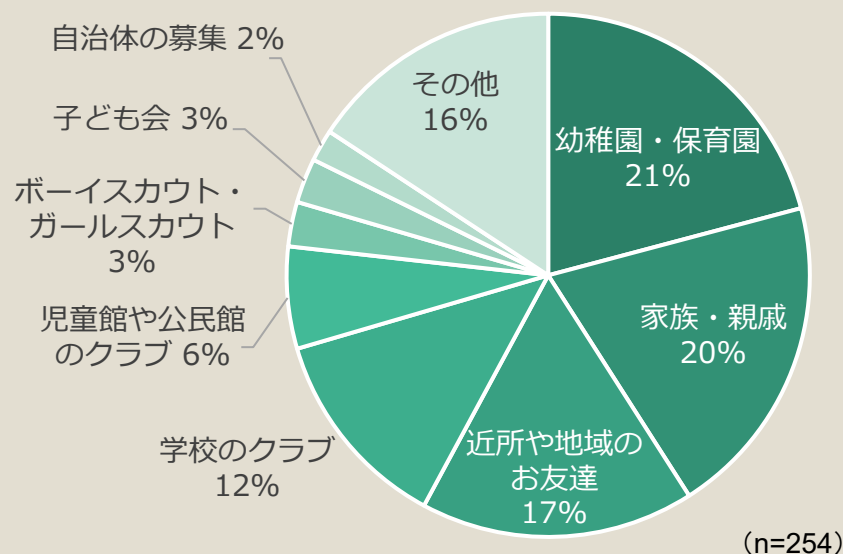
- 例年に引き続き、様々な年代・職業の方が子どもたちの環境活動をサポートしてくださっていることがわかりました。
- 年代は40～60代中心ですが、昨年と比べ20代も1%→3%とわずかながら増えています。職業は教員・保育士・幼稚園教員および会社員が多めで合計54%となりました。
- 年代・セクターを越えて地域の環境問題に携わっていただいている方々とのネットワークを築いていることが、こどもエコクラブの大きな強みです。この強みを活かして**地域課題解決のために多様な主体・ステークホルダーによる協働と実装をさらに強化**することが今後、望まれます。

幅広い活動継続年数・多様なクラブ形態で活動しています

◆クラブの活動継続年数

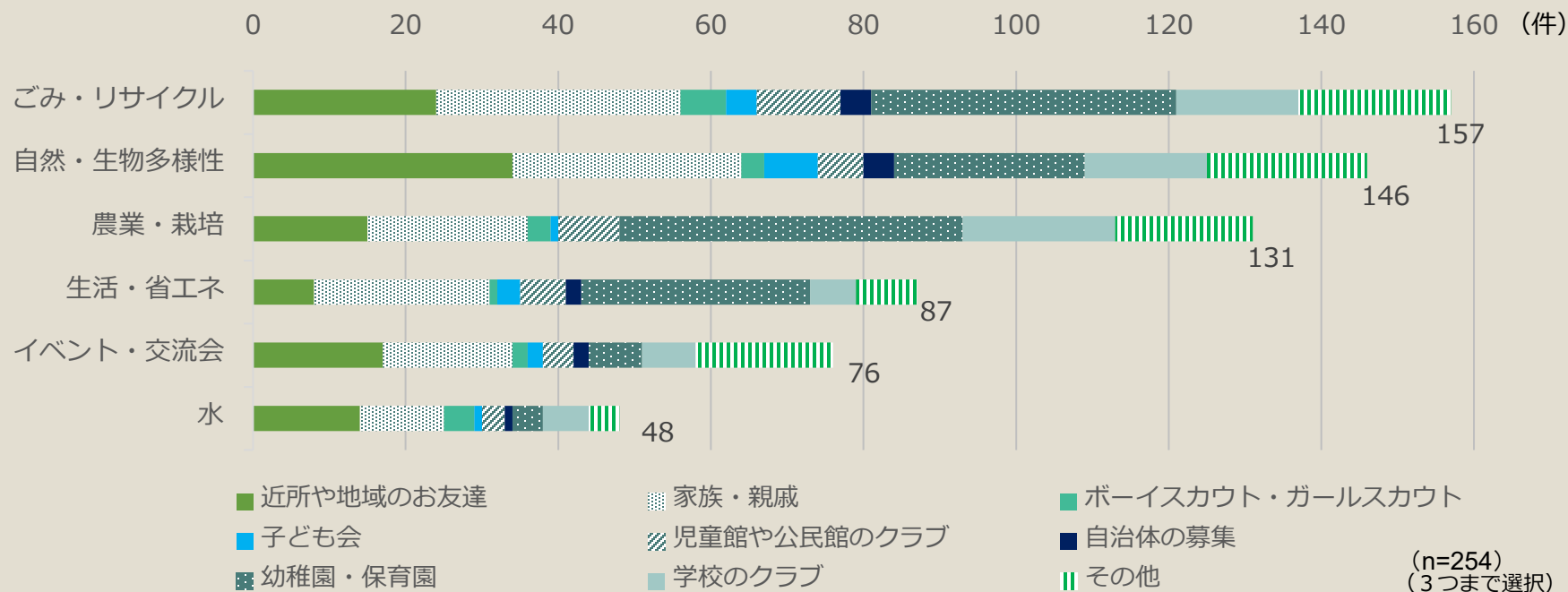


◆クラブの形態



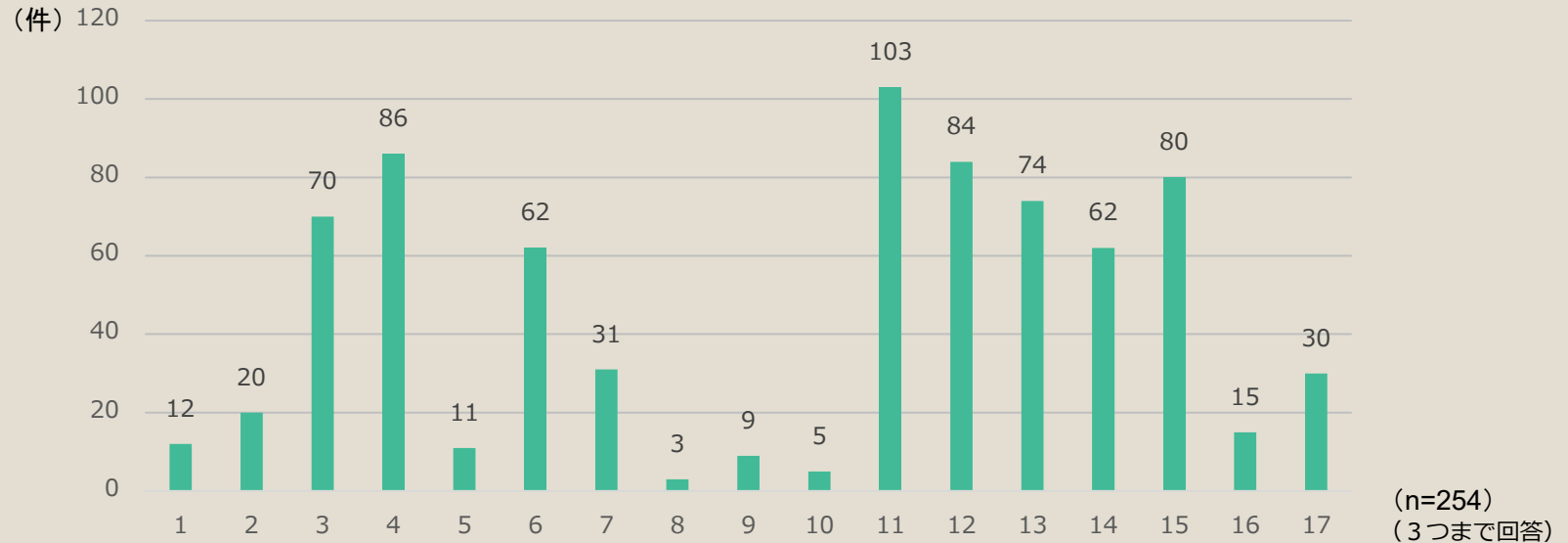
- 新しく結成されたクラブから21年以上の活動歴があるベテランクラブまで多様なクラブのサポーターさんより回答をいただきました。
- また、多様な形態のクラブよりまんべんなくご回答いただきました。
- こどもエコクラブ全体では4割以上が家族・親戚のクラブで構成されていますので、本アンケートでは、幼稚園・保育園、近所や地域のお友達クラブからも多くのご回答をいただきました。

多様なテーマ・内容で活動を行っています



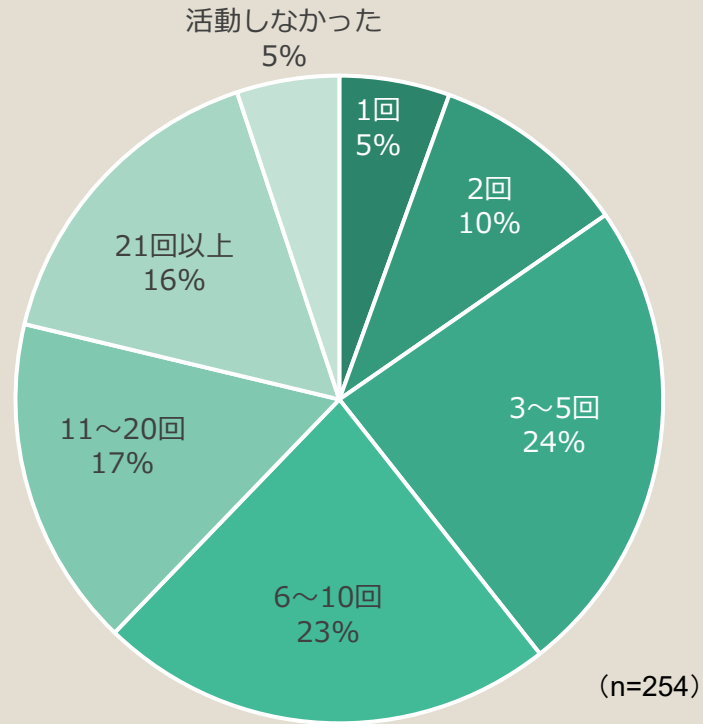
- 上の図は、クラブの活動内容の主なものを回答いただいたものです。
- **半数以上のクラブが、清掃活動やリサイクル工作などの「ごみ・リサイクル」に関する活動、生き物観察・調査、生息地の保全活動などの「自然・生物多様性」に関する活動を実践していることがわかりました。**
- 上位2つの活動は年度によって入れ替わることがありますが、全体的には例年同じ傾向が見られています。
- 幼稚園・保育園クラブは「農業・栽培」、近所や地域のお友達クラブは「自然・生物多様性」、家族・親戚クラブは「ごみ・リサイクル」など、形態により関心のある分野が異なることがわかります。
- その他にも、ワークショップやエコライフ教室、壁新聞づくり、防災体験、企業・自治体等主催のイベントへの参加といった活動など、幅広い活動が見られています。
- 1回あたりの活動平均参加人数は、こども18.1人、サポーター5.3人でした。

SDGs目標では「11.持続可能なまちづくり」に該当する活動が多い状況です



- 上の図は活動がSDGsのどの項目に該当するかについて回答いただいたものです。
- **目標11「持続可能なまちづくり」が一番多く、約48%でした。**
- 目標4「質の高い教育」が約40%、目標12「持続可能な生産」、目標15「陸上資源」と続いて多く、活動に取り入れているクラブが多い傾向であることがわかります。
- 昨年度比で目標11「持続可能なまちづくり」は+約7%、目標4「質の高い教育」は+約10.5%と大きく増加しています。例年に比べ教員の回答が増加していることも影響しているとみられます。

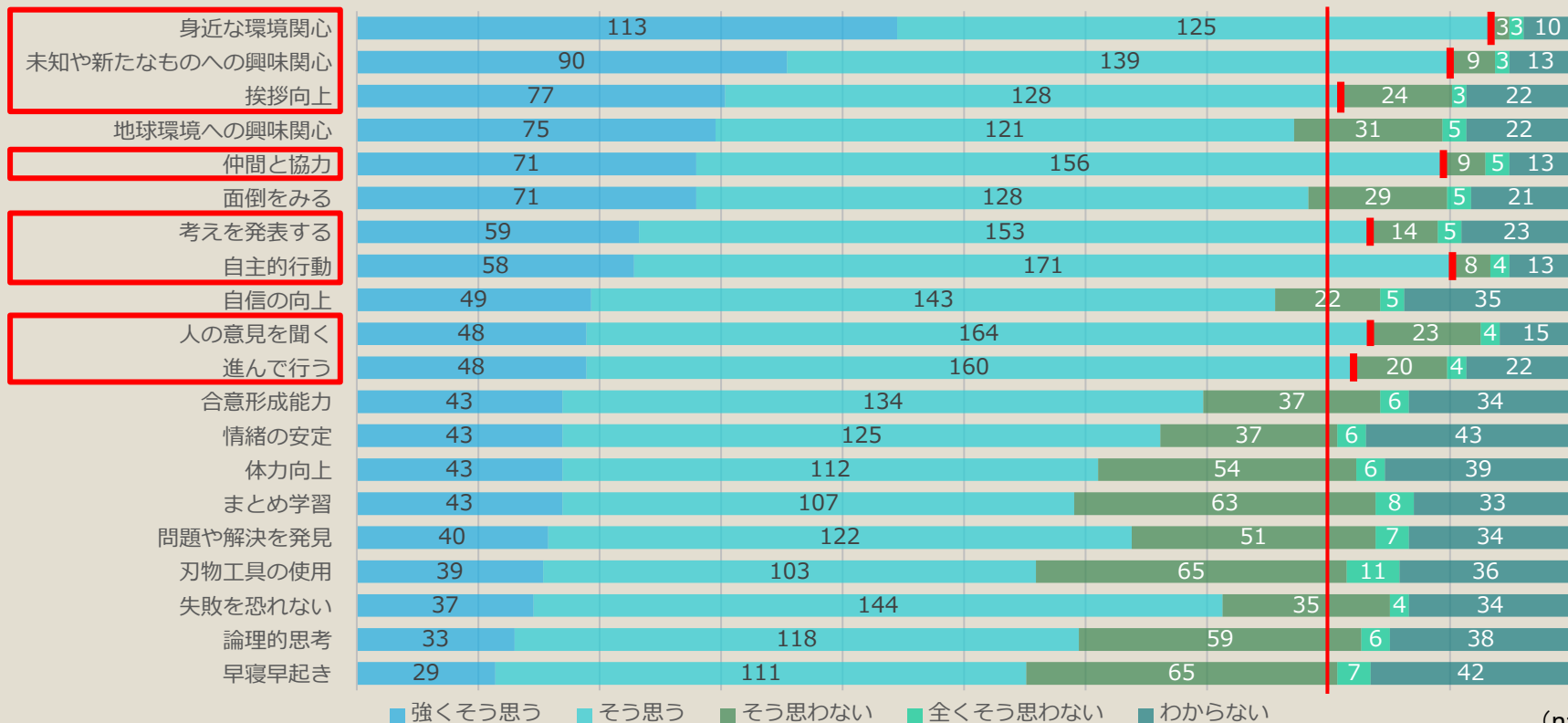
継続した活動で子どもの成長を促しています



- 上の図は、1年間にクラブが行った活動の回数を表しています。
- 8割以上のクラブが3回／年以上活動していることがわかりました。
- 3割を超えるクラブが、平均して毎月1回以上活動しており、**継続して活動することによって子どもたちの成長を促すこどもエコクラブのコンセプトが浸透**していることがうかがえます。

こどもエコクラブの活動は多様な方面から子どもの成長を促します

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



(n=254)

- 上の図は活動によって子どもがどのように成長していると感じているかを聞いたものです。
- 4段階評価の「強くそう思う」＋「そう思う」の件数が全体の80%を超えた項目は「**身近な環境関心**」「**未知や新たなものへの興味関心**」「**仲間と協力**」「**考えを発表する**」「**自主的行動**」「**人の意見を聞く**」「**進んで行う**」でした。
- この結果から、地域課題について考えながら仲間と協力して活動していくことでうちに、積極性を身につけていると推察されます。また子どもたちは**地域の環境に目を向け、自主的に仲間と協力しながら地域課題について考え、地球規模の環境向上への意識変容につながっている**と考えられます。

(*)

特に壁新聞や活動レポート作成などの「まとめ活動」は効果的です

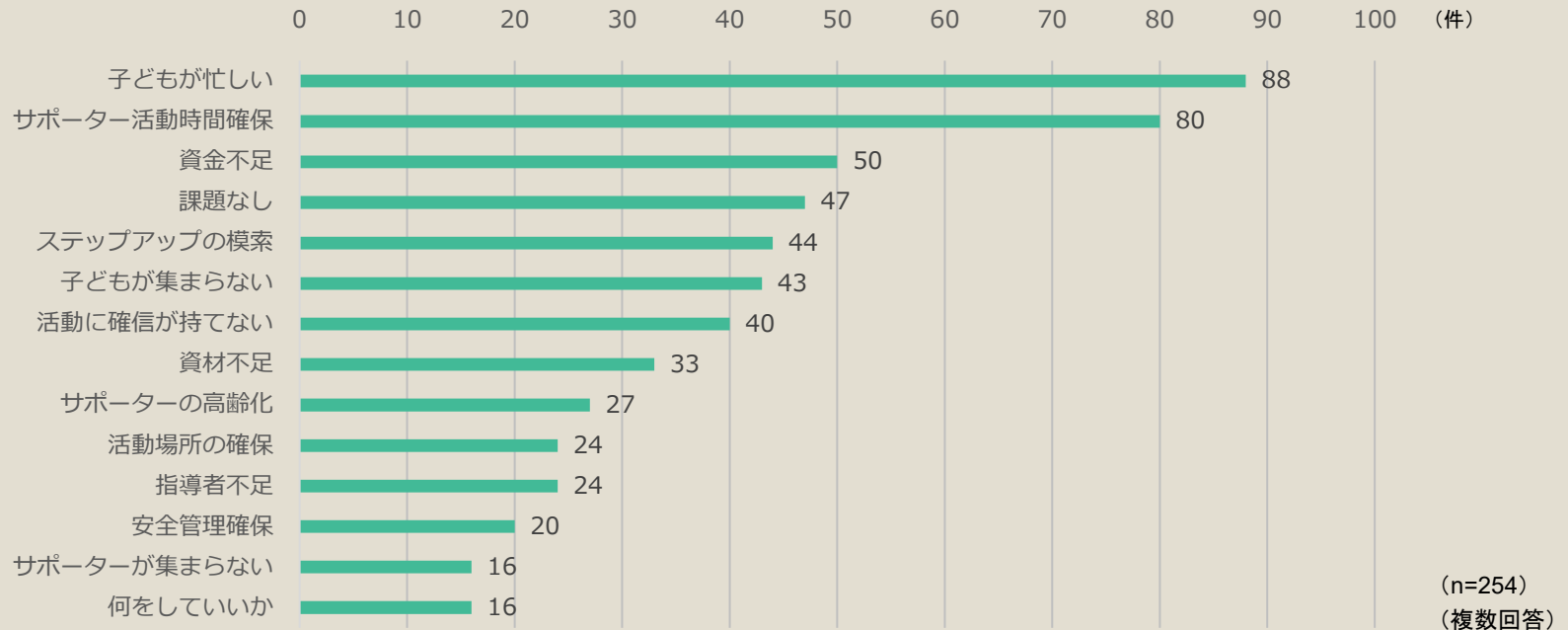


	まとめ活動 あり (n=88)	まとめ活動 なし (n=166)	まとめ学習 ありとなしの 差
自主的行動	35.2%	16.3%	19.0%
仲間と協力	46.6%	18.1%	28.5%
進んで行う	33.0%	11.4%	21.5%
考えを発表する	40.9%	13.9%	27.1%
人の意見を聞く	33.0%	11.4%	21.5%
未知や新たなものへの興味関心	46.6%	29.5%	17.1%
面倒をみる	38.6%	22.3%	16.3%
失敗を恐れない	22.7%	10.2%	12.5%
問題や解決を発見	28.4%	9.0%	19.4%
挨拶向上	34.1%	28.3%	5.8%
情緒の安定	25.0%	12.7%	12.3%
論理的思考	23.9%	7.2%	16.6%
身近な環境関心	54.5%	39.2%	15.4%
合意形成能力	29.5%	10.2%	19.3%
早寝早起き	19.3%	7.2%	12.1%
体力向上	29.5%	10.2%	19.3%
自信の向上	28.4%	14.5%	14.0%
刃物工具の使用	26.1%	9.6%	16.5%
まとめ学習	26.1%	12.0%	14.1%
地球環境への興味関心	44.3%	21.7%	22.6%

(*) まとめ学習 = 壁新聞、活動レポート、絵日記、デジタル作品のいずれかの活動に取り組んだクラブ

- 壁新聞、活動レポート、絵日記等の「まとめ活動」を実施したクラブについては、実施していないクラブと比較してこどもたちの成長・変化に好影響、評価が高いことがわかりました。
- 特に、積極性の「進んで行う」「考えを発表する」、コミュニケーション能力の「仲間と協力」「人の意見を聞く」、地域から地球へのグローバルな視野の拡大「地球環境への興味関心」については他項目と比べて高い数字となりました。

サポーターが課題としてとらえていること



- サポーターも 子どもも忙しく時間がとりにくいことが課題ととらえるクラブが多く、続いて、資金不足や今後のステップアップへの模索が課題ととらえるクラブも多くありました。
- 物価高騰の影響か「資金不足」を課題として捉えるサポーターが年々増加しています。
- また近年の熊被害や熱中症の問題から「活動場所・活動時期が制限される」という課題や、安全管理を課題とするクラブも増加しています。
- 2025年度のサポーター研修会実施が「ステップアップの模索」を課題とするサポーターの減少に影響したと考えられます。サポーター研修会は2026年度も継続して実施していく予定です。

活動の継続や活動のステップアップ、昨今の異常気象やクマ被害の対応等のサポーター向け研修、安全管理・活動の事例共有の場（交流会）等の取組みが考えられます。

課題を克服するために、事務局に望むこと・実践していること（自由回答）

★ 回答数の多い順

- **資金や助成金に関すること**

資金や助成金の情報が必要という意見が多数ありました。助成金や企業支援を活用や、工作物を売ったりメンバーが他団体の講師を担って資金を得るなどの工夫をしているという回答もありました。

- **情報や資料の提供に関すること**

身近なことからできる活動・内容に関する資料や情報の提供、地域開催のイベント情報に充実を求める意見が多くあがりました。オンラインでの講演会や講座などの情報を求める声も増えてきています。

- **人材派遣・育成研修に関すること**

内容にあった講師や協力者、サポーターの派遣およびサポーター育成のための研修等を希望する声がありました。またサポーターの高齢化により後継者確保のための声掛けに力を入れているという回答もありました。

- **他クラブとの交流に関すること**

メンバーの多忙やモチベーション確保、参加者数を増やすことなどへの課題があることから、他のクラブでの事例が知りたい・交流したいという回答がありました。

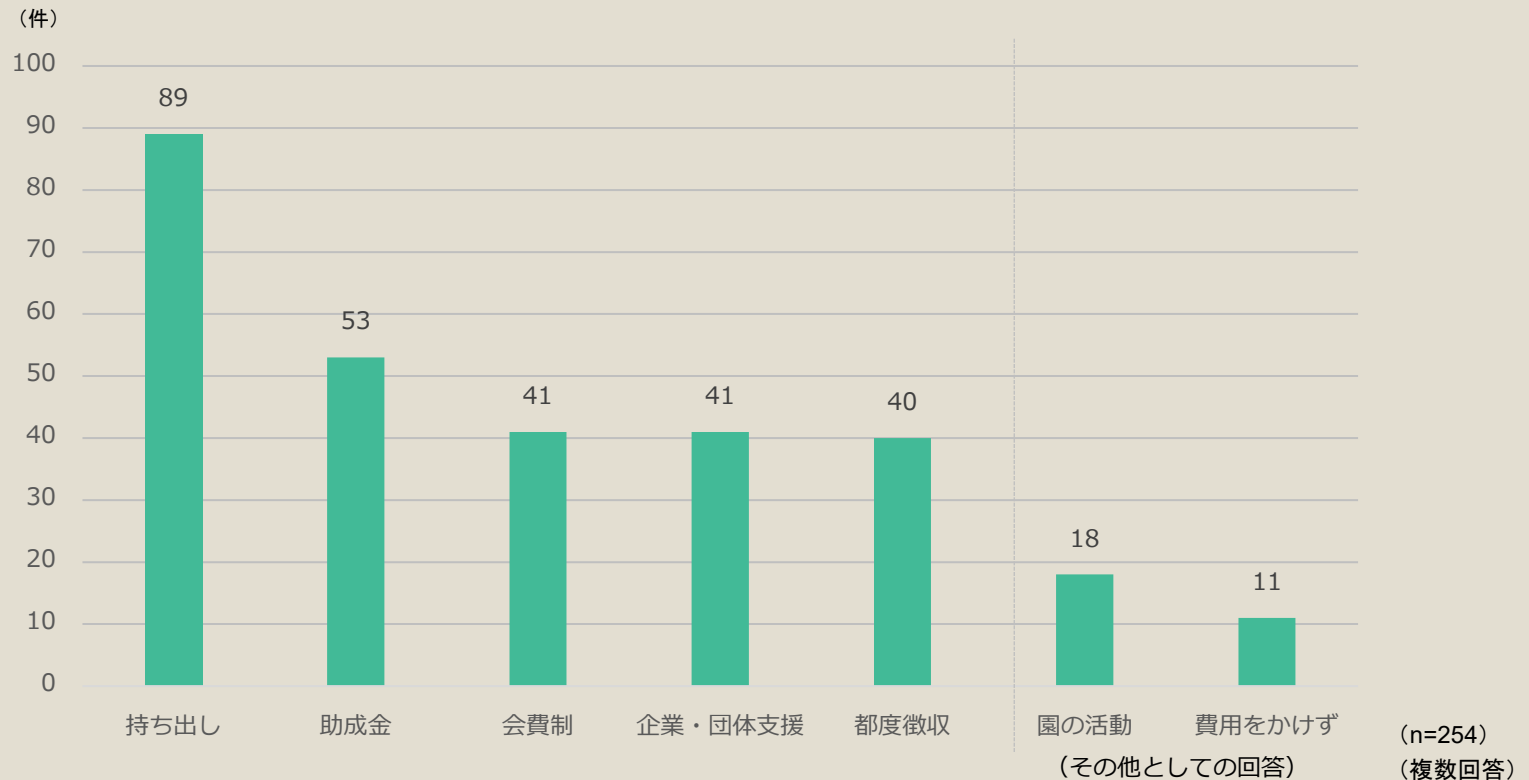
- **地域での連携に関すること**

企業や団体・協力者との連携等、多様な地域主体とネットワークをつくって活動しているという回答がありました。

- **地域事務局への期待**

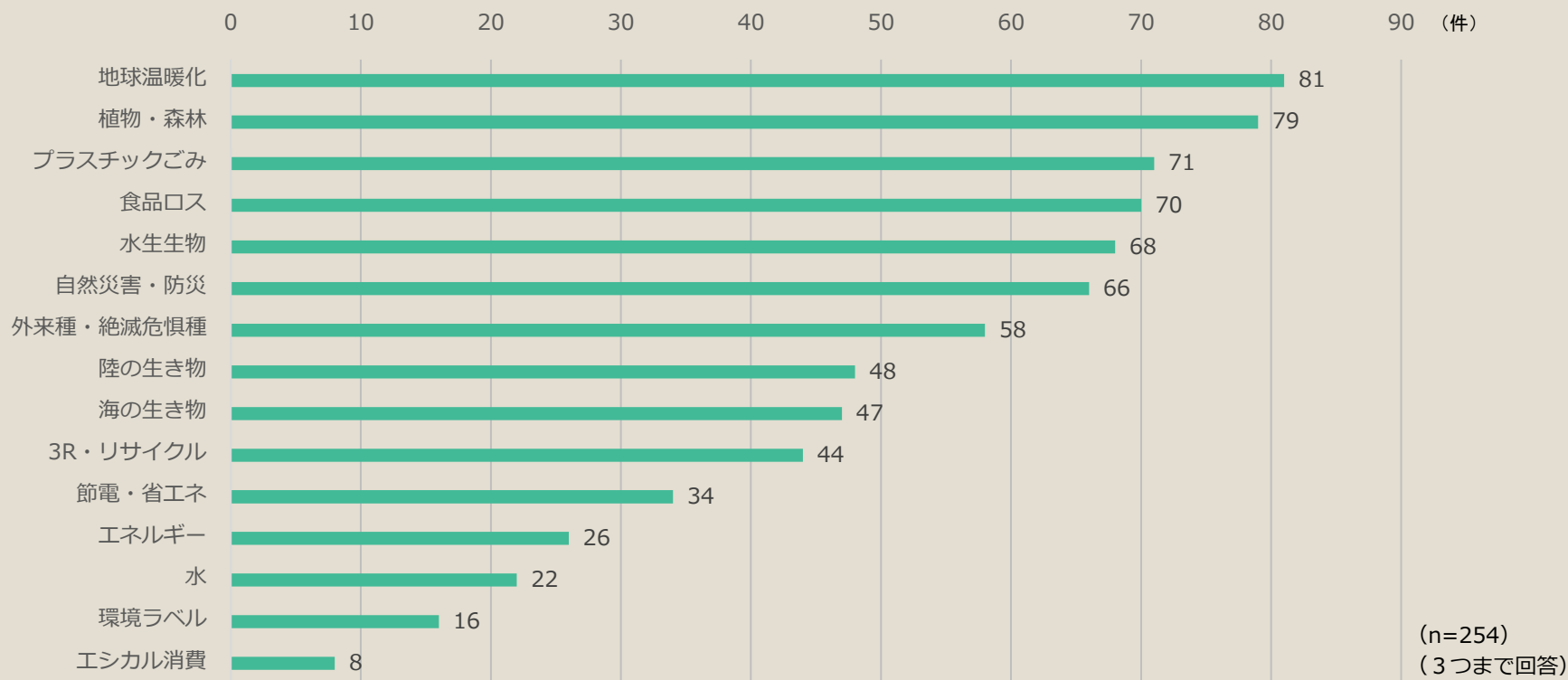
こどもエコクラブ事業への積極的な関わりを期待するという回答がありました。また、交流機会の増加を期待する回答も複数見られました。

活動に必要な資金の調達について



- サポーターが持ち出しで負担している件数が多い一方で企業・団体からの支援や助成金をうまく活用し、資金を得ている状況がうかがえました。
- 園の活動の一環として取組みを行うなど、費用のかからないことを工夫して実践しているという声もありました。
- 活動で制作したものを販売したり、メンバーが他団体の講師として講師料をもらって活動費に充てているクラブもありました。

新たなプログラム・コンテンツを希望するテーマについて



- 地球温暖化、植物・森林、プラスチックごみが上位3つとなりました。
- 地球温暖化および植物・森林が伸びているのは、異常気象や猛暑・酷暑、熊の行動変化など、地球温暖化を実感する状況が多いことからと思われます。
- 植物・森林が伸びているのは、里山の魅力や自然体験が見直されていること、猛暑・酷暑による活動場所の制限により、比較的活動しやすい森林（里山）などが再度注目されていることが影響していると思われます。

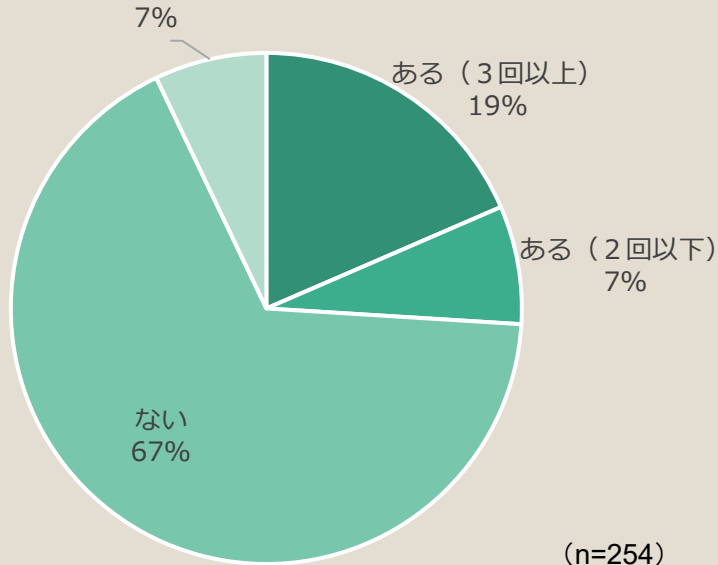
全国エコ活コンクール★への応募について

★ こどもエコクラブ全国事務局主催コンクール

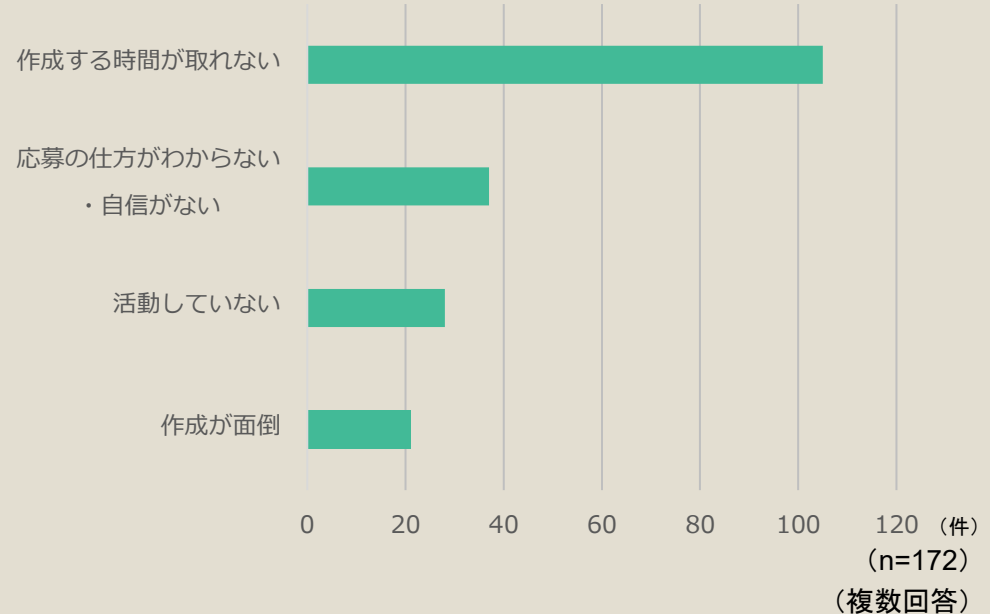
https://www.j-ecoclub.jp/challenge/alleco_action/

◆エコ活コンクールへの応募回数

「全国エコ活コンクール」を知らなかった



◆応募したことがない理由

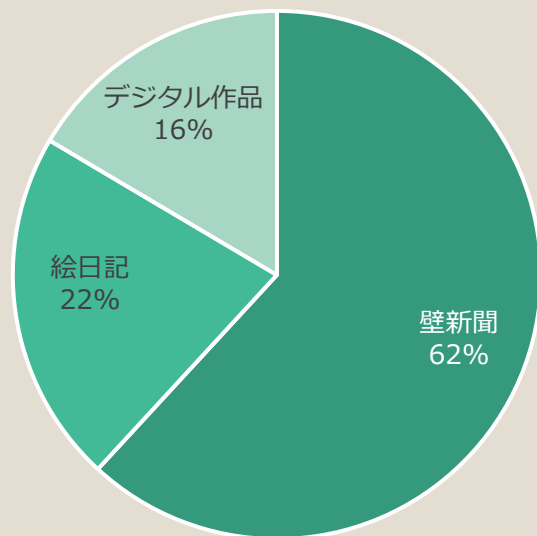


- 上の図は「全国エコ活コンクール」への応募について回答いただいたものです。
- 約26%がエコ活コンクールに応募したことがあり、うち約19%は3回以上の応募歴がある一方、約67%が応募歴がなく、約7%がエコ活コンクールの存在を知らなかったと回答しています。
- 応募したことがない理由は「作成する時間が取れない」が圧倒的に多く、「応募の仕方がわからない・自信がない」というクラブもありました。
- その他にも「家族クラブのため他のグループのような作品は作れない」「活動メンバーが毎回違う」「メンバーが低年齢」など、ハードルが高いと感じているクラブもありました。

全国エコ活コンクールの部門★ について

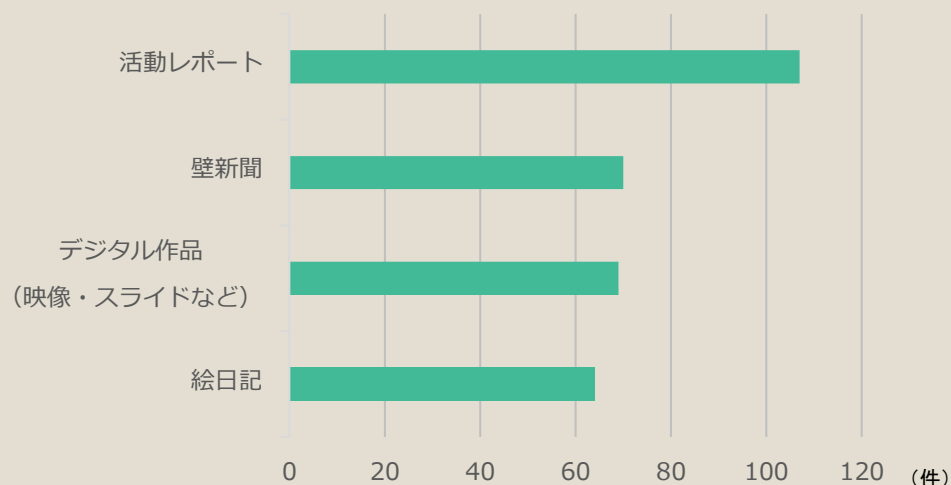
★ 現在「壁新聞」「絵日記」「デジタル作品」の3部門を実施

◆応募したことのある部門



(n=66)
(複数回答)

◆取り組みやすい作品形式

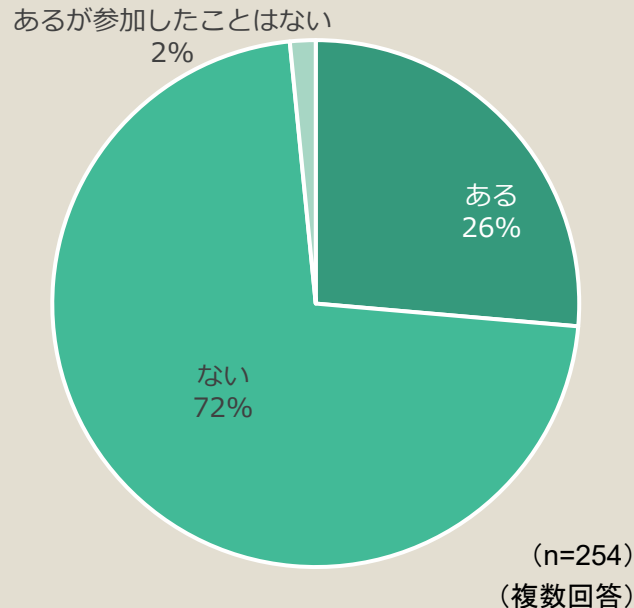


(n=254)
(複数回答)

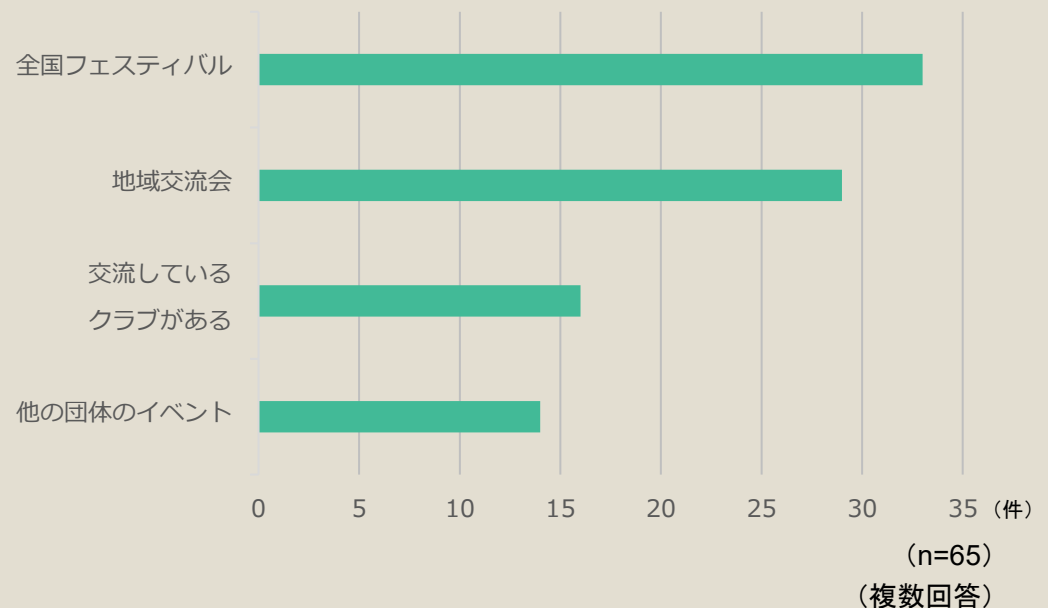
- 全国エコ活コンクールへの応募歴があるクラブにおいて、応募したことのある部門は「壁新聞部門」が最多の約62%、2023年度から新設された「デジタル作品部門」も約16%と「絵日記部門」にせまる勢いとなっています。
- また「取り組みやすい作品形式」を聞いたところ、「活動レポート」が多く、現行の「壁新聞」「絵日記」「デジタル作品」の3部門の形式は同程度の回答数となりました。
- 取り組みやすい形式としては、その他にも「写真」「絵」「工作」などの文字がないものや、スマホ等で報告できる形式のもの、書式が決まっているものなどの意見がありました。

他のクラブとの交流について

◆他クラブとの交流の有無

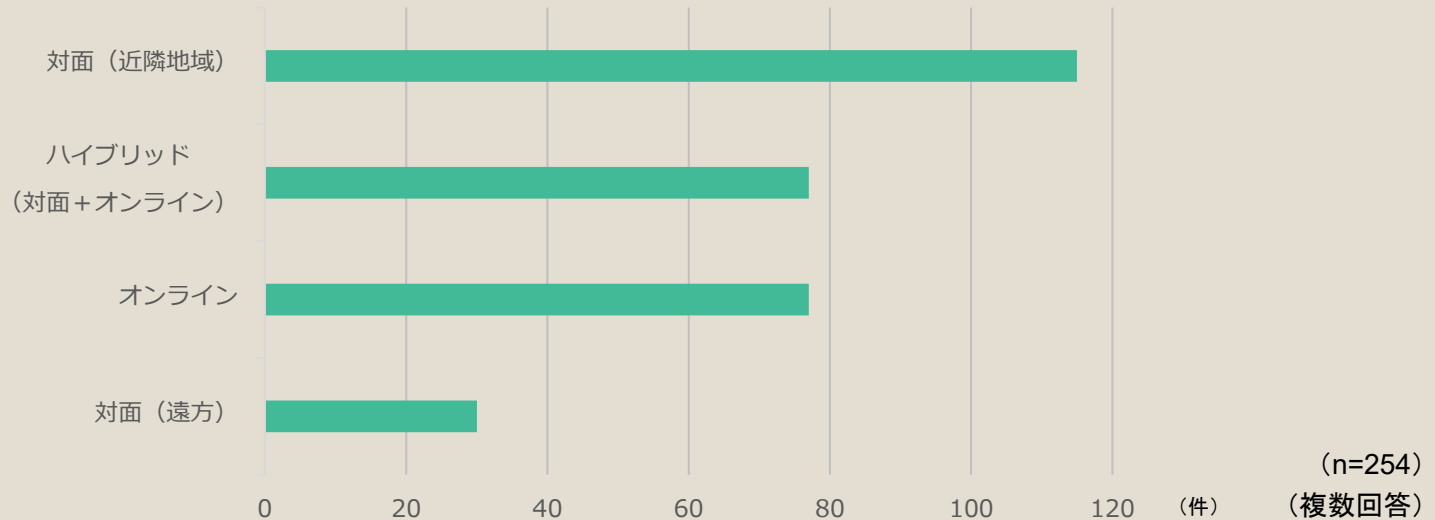


◆参加したことのある交流イベント



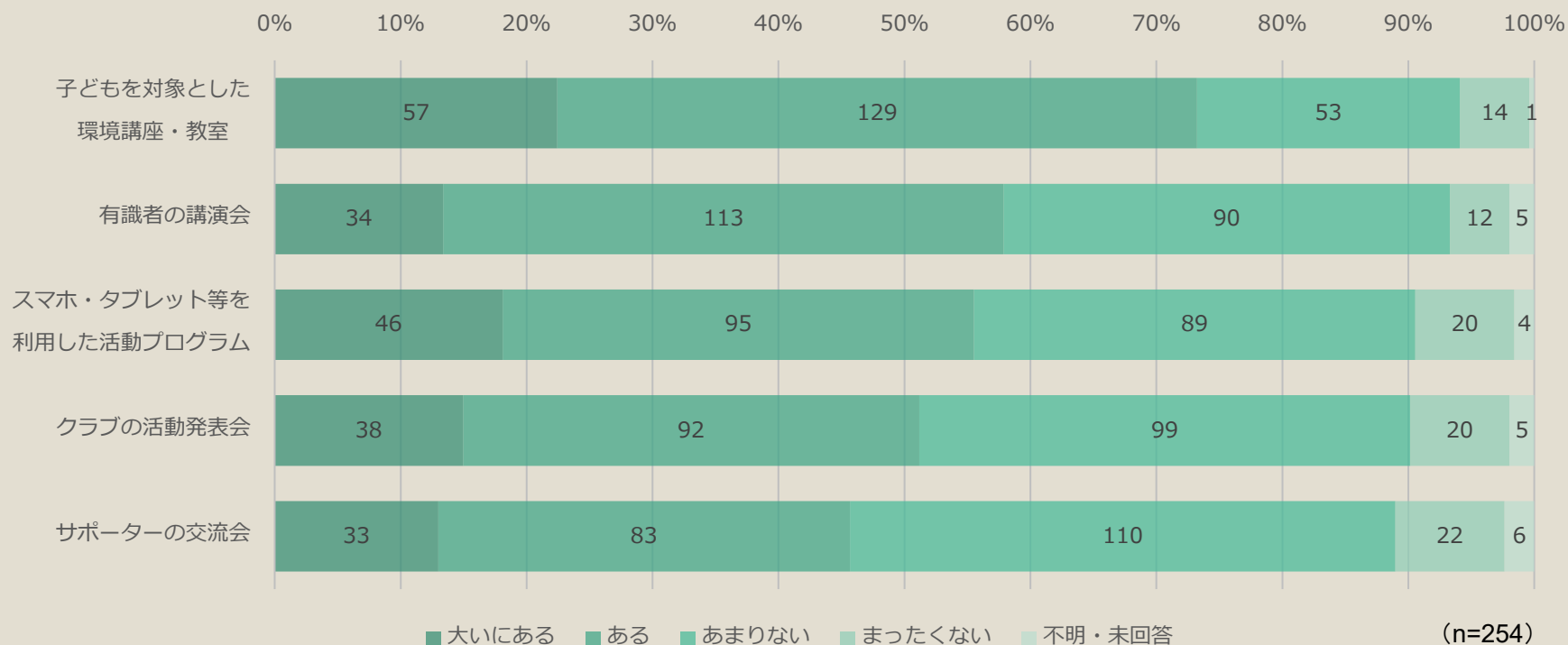
- 上の図は、他のクラブとの交流状況について回答いただいたものです。
- 約26%のクラブは交流があり、そのうち70%近くが全国フェスティバルや地域交流会で他クラブとの交流を行っていることがわかりました。また約17%のクラブが日常的に交流しているクラブがあると回答しました。
- 一方で、約72%のクラブが交流がないと回答しています。これは幼稚園・保育園などの低年齢のクラブ（全体の約21%）や学校のクラブ（全体の約12%）も多く、校外イベントへの参加が難しいことなども影響していると考えられます。

関心のある交流イベントの開催形式について



- 上の図は、他のクラブとの交流について、関心のある開催形式を回答いただいたものです。
- クラブにとって参加しやすい近隣地域での対面形式が最多の回答となりましたが、ハイブリッド（対面＋オンライン）形式やオンライン形式への関心も多く回答がありました。コロナ禍をきっかけにオンラインでのイベントも増え、参加環境の整備も進んできたことが影響していると考えられます。
- 遠方での対面形式のイベントへの関心も少なからず見られました。遠方に行けるというのは、メンバーにとってのモチベーションにつながるという面もあるようです。

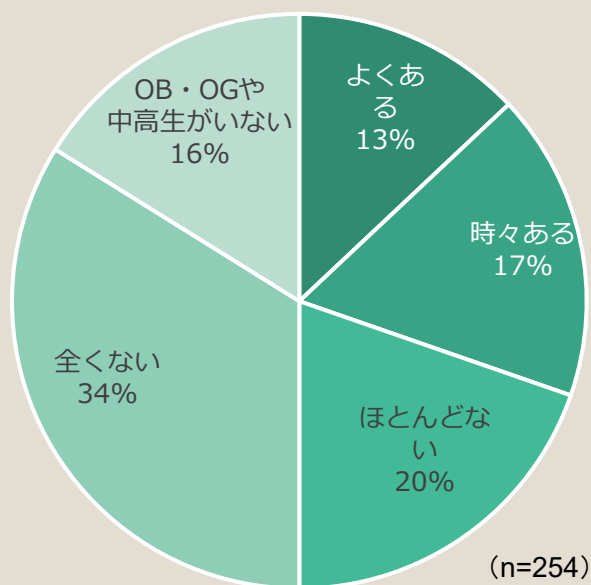
オンラインやデジタル機器を活用した活動やイベントへの関心



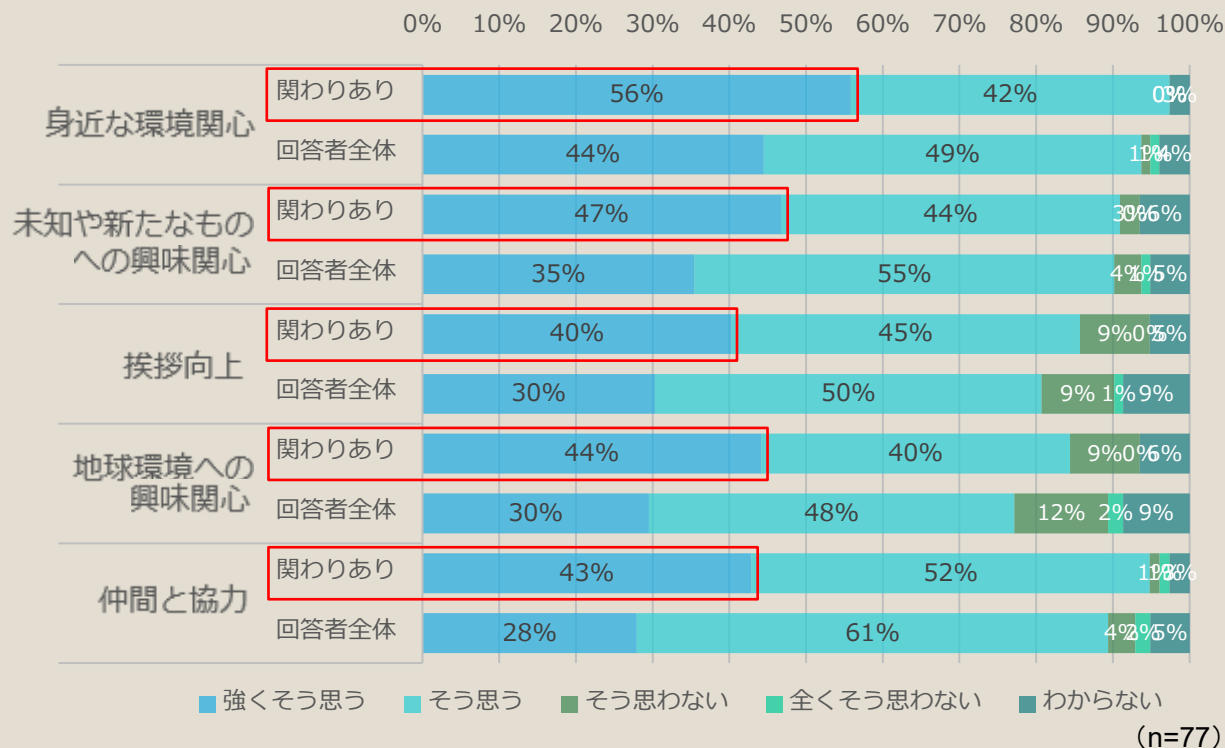
- 上の図は、オンライン・デジタル機器を活用することへの関心を示しています。
- 子どもを対象とした環境講座・教室は関心が高いことがわかりました。
- 一方で、活動発表や交流に関するオンライン活用の関心は半数程度でした。子どもたちの交流については対面重視の傾向があり、交流は対面で会ってこそと考えるとの意見も多くありました。

こどもエコクラブOB・OG（ユース）の関わり方について

◆OB・OG（ユース）との関わり



◆ユースと関わりのあるクラブと全体の子どもの成長比較



- 左の図は、OBやOG、中高生がどの程度関わっているかを聞いた結果です。
- 関わりが「全くない」「OB・OGがいない」が多い状況がわかります。一方で「よくある」「時々ある」を合わせると約30%であり、一定数、OBやOGが関わっているクラブもあることがわかります。
- 右の図は、子どもの成長のグラフ（8ページ参照）について、ユースと関わりのあるクラブと全体の回答を比較した結果です。全体回答における上位項目のみの抜粋ですが、OB・OG（ユース）との関わりがあるクラブは、それぞれの項目に「強くそう思う」と回答する割合が高い傾向がありました。図に示した項目以外の全ての項目においても同じ傾向が見られています。

各種の表彰について

- 2025年度、こどもエコクラブの活動によりクラブまたはクラブメンバーが賞を受けたかについてお聞きしました。
- ひとつでも表彰を受けたクラブは**254クラブ中、23クラブ**（約9%）でした。
- 賞を受けた表彰の種類や主な名称を下記に列挙します。

- ✓ 行政主催 環境省「環境教育・ESD実践動画100選」入選、
長崎県環境保全功労者表彰、北九州市環境首都検定、
台東区まちなみ絵画コンクール入賞等
- ✓ 団体主催 コカ・コーラ環境教育賞受賞・ノミネート、
GSユアサ小学生ECO絵画コンクール入選、
日本環境教育フォーラムわたしの自然観察路コンクール受賞、
日本極地研究振興会南極・北極SDGs探究学習コンテスト立飛ホールディングス賞等

まとめ・謝辞

その他いただいたご意見として、活動レポートのメールメッセージなどの励ましが子どもたちの意欲につながる、活動を報告できる場があるのがありがたい、こどもエコクラブのプログラムやイベントがきっかけとなり環境に興味を持ち積極的に活動するようになったという声がありました。また、こどもエコクラブの活動を通して、子どもたちが大きく成長している・サポーターも一緒に楽しみながら活動をサポートしている、という嬉しい声もいただいています。なおこどもエコクラブ全国フェスティバルの終了については残念という声も多数届き、全国それぞれの地域で活動しているクラブがあることを実感できる貴重な機会だった・同様の交流機会があると良い・これからの地域フェスに期待したい などのご意見をいただきました。今後は地域での対面交流に重きを置いて、地域からクラブを盛り上げる企画を進めていきます。

こどもエコクラブの活動は、
協働を通して若年層の人材を育成し、地域の環境に目を向け、
地球規模の環境向上への意識変容につながっていると考えられます。
また、仲間と協力し壁新聞や活動レポート等のまとめ学習を行うことは、
子どもたちの成長・自己肯定感の向上に大きな好影響を与えているほか、
様々な活動を行う他クラブとの交流を行うことで
強く刺激を受け、活動意欲に大きな影響を与えると推察されます。

こどもエコクラブ全国事務局では、アンケート結果を活かして
クラブのみなさまのお役に立つ情報やプログラムを展開していきたいと思います。
ご回答いただきましたみなさま、ありがとうございました。

